

大枝 桂坂

大枝の富有柿と沓掛城跡

大枝、桂坂地区を通る道筋は古くから老ノ坂峠を越え京都と山陰地方を結ぶ西の主要道でした。この地域は旧石器時代から人が住み、古代から天皇や豪族とのかわりが深かったところです。現在、それらの歴史はここを通る山陰街道沿いや大枝・桂坂の地域に多くの古墳や神社、寺、陵墓の存在が物語っています。桓武天皇と淳和天皇の御生母陵がある大枝地区や、緑美しい桂坂地区にある「桂坂古墳の森」公園付近を歩き、この地域の遺跡や寺社などの文化財を見て歩く散策路をご紹介します。

美しい桂坂

かつらぎ

大枝の丘陵・桂坂は南の桂坂口から桂坂中央通りを北に進むと、ニュータウンに入ります。ロータリー北東側に桂坂公園、その北西には古墳の森があります。北に進めば国際日本文化研究センター・桂坂野鳥遊園があります。古墳の森を中心に道が広がり、石畳の道や緑道があり、桜やモミジが植えられ、小川が流れ自然豊かなところです。

桂坂野鳥遊園

自然豊かな敷地に、約100種類の野鳥をバードウォッチングできます。約2.8kmのハイキングコースは古道・唐櫃越と合流しています。ものづくり体験館や宿泊施設もあります。観察室入場無料



桂坂野鳥遊園



観察室「観鳥楼」

桂坂古墳の森(大枝山古墳群)

大枝山古墳群は1980年～1987年にかけて3度の発掘調査がなされ、古墳時代後期の円墳23基が群集墳であることが明らかになりました。その内13基が現状のまま残され、古墳公園として整備保存されています。また、発掘調査された一基が公園の一角に移築されています。なお、平成12年4月に京都市指定史跡に指定され、古墳の森は平成23年11月に京都市所有となっています。見学は市の文化財保護課に事前に申し込みが必要です。



14号古墳(移築)

国際日本文化研究センター

日本文化・歴史の国際的総合文化と、世界の日本研究者に対する研究協力を目的として、1987年に設立された文部科学省の大学共同研究施設です。



唐櫃越(戦さ道)

唐櫃越

桂坂の北に控える山なみの描く稜線に唐櫃越と呼ばれる古道が走っています。この道は山陰街道の、いわばバイパス路で、南北朝の内乱期に京に優攻し、あるいは敗退する武士達が丹波と京を往還した戦さ道でもありました。名前は唐櫃という運搬具(木箱)を運ぶのが精一杯の狭い道であったことに由来しています。



唐櫃越(野鳥遊園からの登山路より)

峰ヶ堂山寺跡(峯ヶ堂城跡)・「野外音楽堂(仮称)」

峯ヶ堂は鎌倉時代に創建され、元弘の乱(1331)と応仁・文明の乱(1467～1477)により二度焼け落ちました。その峯ヶ堂跡に野外音楽堂が地元の有志により開設されました。この音楽堂は間伐材でステージを造り、丸太や竹の根元を椅子に使い、自然を生かした造形が特徴です。



野外音楽堂(近日に完成予定)

地福寺

浄土宗西山派の寺院。寺伝によると1186年、法然上人の高弟・花元の開基とされ、現在の堂は1772年粟生(あお)光明寺僧呑海(どんかい)の中興で民家風です。本尊は平安時代初期の行基作と伝わる阿彌陀如来坐像です。峯ヶ堂にあったものが元弘の乱(1331)の戦火で難を逃れて唐櫃越山中の寺院に移され、後にこの寺に持ち込まれたと伝えられています。



阿彌陀如来坐像(市指定文化財)

三ノ宮神社

塚原の東方にあり、祭神は玉依姫(たまよりひめ)です。隣の中山地区から、1685年に住民の移転の際に、ともに移転したとされています。



- 市バス 阪急桂駅西口行 西5/西6系統
- 京阪バス 阪急桂駅西口行 20/20B系統 京都駅行 21/21A/26系統
- ヤサカバス JR桂川駅経由JR向日町駅行 1A系統 JR桂川駅行 6系統

国境・山城～丹波

大枝の地は山城・丹波の二国を結ぶ交通の要地で、大江関(大枝山関)が設けられた山陰地方への出入口です。古墳時代は葬送の地でしたが、山背(山城)国に都が遷されてから交通上だけでなく、軍事上の要衝となりました。都を守る儀式が行われる重要な西の国境でした。また、大枝山・老ノ坂は和歌の歌枕とされ、酒呑童子に代表される伝説・説話の舞台にもなりました。さらに、戦国時代には明智光秀の老ノ坂越えの逸話を残し、江戸時代の山陰街道は参勤交代の大名行列路として、多くの人々の往来で賑わう道として栄えてゆきました。



大枝神社
祭神は高美計神(たかみけがみ)で、大枝氏の氏神といわれています。明治六年、村社に公定され、現在は、沓掛町(くつかけちょう)の産土神です。



大江の関明神
平安時代、山陰道の丹波国と山城国の境界に関所が設けられました。現在、旧道の関の山という字地に、その関所跡だとされる「関の明神」の小祠が残されています。



弁天井戸
弘法大師が錫杖(しゃくじょう)で水脈を探して掘ったところ清水が湧き出したと伝えられています。現在も井戸から水がこんこんと湧き出ています。

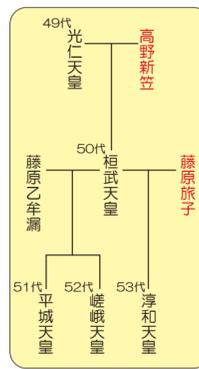
大枝の陵墓

ここでは桓武天皇とつながりが深い皇室の陵墓を見ることができます。天皇御母と皇后陵墓です。どちらも長岡京で亡くなり、都の西北にあたるこの地に葬られました。古代葬送の地とされるこの地に、多くの古墳と共にあります。後の平安京遷都後、都に通じる古道・山陰道沿いの道として利用されました。

1 宇波多陵(淳和天皇御母陵)
第五十代・桓武天皇夫人で淳和天皇の生母、藤原旅子(ふじわらたびこ)の陵墓です。参道は三ノ宮神社横の竹林に囲まれた苔の石段を登ります。



2 大枝陵(桓武天皇御母陵)
第四十九代・光仁天皇の夫人で、桓武天皇の生母、高野新笠(たかのにいがさ)の陵墓です。参道は竹林の中の石段を約200m登り、拝社は緑に囲まれた山上にあります。



子安地蔵尊
江戸時代には安産の神として女性に信仰され、一方、峠を旅する人には旅路の安全を祈願する峠の地蔵として、今も国道9号線沿いに祀られています。



首塚大明神
老ノ坂トンネルから旧道約400mに「是從東山城国」の石碑があります。さらに100m先に「首塚大明神」の小祠があります。平安時代、源頼光が酒呑童子を退治し、首を埋めた塚の伝説から祀るようになったといわれています。



大枝 桂坂



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

大枝 桂坂周辺の発掘調査

大枝 桂坂地区は、古代から山城と丹波を結ぶ重要な交通路である山陰街道が東西に延びています。平安時代は丹波との国境の地で、老ノ坂峠の手に大江の関所が設けられました。周辺の遺跡には古墳時代前期（3世紀末～4世紀）の前方後円墳である一本松塚古墳が大枝地区南の檜原に築造されます。古墳時代後期（6～7世紀前半）になると大枝山古墳群や、沓掛古墳群・大枝神社古墳、塚原古墳群などの古墳群が多数造られます。大枝山古墳群は発掘調査が行なわれ、その後、保存・整備され、史跡公園となっています。桂坂地区には唐櫃越（からとごえ）と呼ばれる丹波と京都を結ぶ古道があり、中世には、唐櫃越の南側に峰ヶ堂城が築かれ戦略的要所として重要な役割をになってきました。

① 一本松塚古墳(古墳時代前期)

山陰街道の南側の丘陵上に位置する市内では最も古とみられる前方後円墳の一つです。明治三十年（1897）年に発掘調査が行われ、埋葬施設である竪穴式石室から銅鏡3面と鉄剣が出土しています。墳丘は後世の削平により後円部の一部のみが残存しています。



竪穴式石室内から出土した銅鏡
(写真掲載『平安京以前～古墳が造られた時代～』京都市文化財ブックス第26集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課発行)

② 大枝山古墳群(古墳時代後期)

山陰街道沿いの塚原集落から北約1.5km、小畑川の支流・下狩川沿いの谷斜面に点在する円墳25基からなる群集墳です。1980年～1987年にかけて17基の古墳が発掘調査され、すべて円墳で径15m～20m、埋葬施設は横穴式石室であることが明らかになりました。この丘陵帯は近年、大規模な宅地造成がおこなわれましたが、群集墳中心部の13基は現状保存され、史跡公園となっています。



25号墳の石室入口



石室内から出土した土器類



石室内から出土した鉄剣・刀子(とうす)等の鉄製品 →



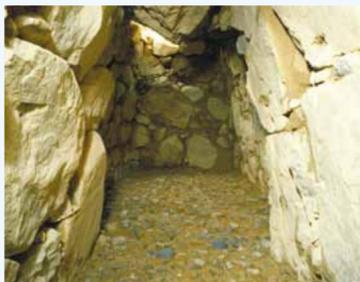
石室内から出土した銀象嵌(そうがん)の鉄刀と耳環



22号墳の発掘調査の様子



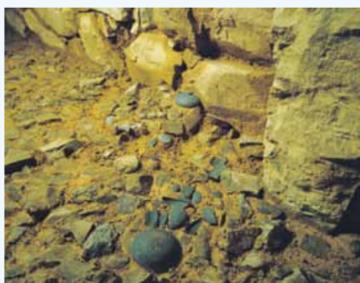
14号墳の石室入口と墳丘



22号墳の石室内部



15号墳の石室入口と墳丘



22号墳の石室内から出土した遺物



21号墳の発掘調査の様子

③ 大枝神社古墳(古墳時代後期)

山陰街道沿いの神社や陵墓近辺には古墳がいくつかみられます。沓掛町の大枝神社境内の本殿西側に残る古墳も、その一つで、径約11m、高さ約2mの円墳で、主体部の横穴式石室の天井石が境内鳥居の背後に露出しています。



山陰街道沿いの大枝神社



神社境内に残存する古墳



境内鳥居裏に露出している石室天井石の石材

④ 峰ヶ堂城跡(戦国時代)

唐櫃越の南側には、13世紀に法華山寺が建てられました。通称「峰の堂」とも呼ばれていました。この寺は戦国時代に焼失し、その跡地に峰ヶ堂城が築かれ、軍事上の拠点となりました。これまでの分布調査により、寺の伽藍や石垣を利用して築かれたとみられる、堀切や土塁跡が確認されています。



峰ヶ堂城跡の遠景



残存する土塁跡



平坦地に残る礎石

⑤ 沓掛城跡(戦国時代)

山陰街道が老ノ坂に達した山の頂上(標高320m)から南斜面に築城された戦国時代の山城です。現在、城の全域が京都府立大学の演習林になっています。これまでの分布調査で上下二段の平坦面や曲輪(くるわ)、堀切、土塁跡などが確認されています。



山頂上の平坦地



残存する土塁跡



沓掛城跡から大枝・桂坂を望む



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

